



公立大学法人

静岡文化芸術大学

SUAC

碧 い 風

SUAC広報誌 Vol.21
Oct.2025

特集「伝承文学ゼミ」クロストーク
地域に語り継がれた民話を後世へ

SUAC TOPICS

SUAC研究の「いま」

研究室訪問

授業紹介

SUACさんぽ

キャリア支援室より

新任教員紹介

同窓会からのお知らせ

地域に語り継がれた民話を後世へ

浜松市北部の中山間地域で民話を採録し、書籍として刊行し続けてきた「伝承文学ゼミ」。

今回は、伝承文学ゼミの二本松康宏教授とゼミに所属する3年生4人に、天竜区佐久間町で取り組んでいる採録調査や、書籍の刊行に向けた思いなどについて、お話を伺いました。



鬼沢：私はすごく悩んでこのゼミに入りました。いろいろ見て回って、どうしようかなと思ってたんですけど、将来、何か強い武器というか、力というかそういう自分を守るものがほしいと思った時に、このゼミがいいなと思って決めました。

高淵：私は直感というか、成り行きというか。ゼミプレゼンがあった時、先生のプレゼンを聞いて「いいかも！」と思っていましたが、オープンゼミに行ったら先輩がすごくおすすめてくれたので、ここにエントリーしようと思いました。

辻榮：私は好奇心です。出身が富山県なので、せっかく日本海側から太平洋側まで来たのに、何もこれといったことをせず、ただ平凡な大学生活を送るのになあと思っていました。で、やりたいことは何かと考えたときに、大学入学前は海外に向いていた好奇心が、いつの間にか日本に向いていることに気づいたんです。そんなときにゼミのプレゼンを聞いて、「面白そう、やってみたい」と素直に思わせてくれたのがこのゼミでした。

伝承文学ゼミに入った理由

二本松：伝承文学ゼミでは、二〇二四年度から浜松市天竜区で民話の採録調査と書籍の刊行に取り組んできました。水窪で3年、龍山で1年、春野で6年、熊で1年。これまでに刊行した書籍は11冊になります。本年度から佐久間での調査が始まりました。地域と家庭に語り継がれた心と記憶の文化遺産―私たちは民話をそう考えてきました。その「心と記憶の文化遺産」を預かり、記録し、後世に伝えてゆく。それが伝承文学ゼミに受け継がれたプロジェクトです。年間で20数日にもおよぶフィールドワーク、解説の執筆、書籍の編集：ハードワークで知られる伝承文学ゼミに、それでも集ってくれた皆さんとのクロストーク、今日は楽しみです。

心と記憶の文化遺産

碧い風

SUAC広報誌 Vol.21
Oct.2025

CONTENTS

- 01 Pick Up Student
- 02 [特集] 「伝承文学ゼミ」クロストーク
- 06 地域に語り継がれた民話を後世へ
- 07 SUAC TOPICS
- 08
- 09 SUAC研究の「いま」
- 10 研究室訪問
- 11 授業紹介/SUACさ・ん・ぽ
- 12 キャリア支援室より
- 13 新任教員紹介
- 14 同窓会からのお知らせ



PICK UP STUDENT

展示に込めた想いと挑戦

阿部 壮太郎さん

文化政策学部 芸術文化学科3年
和歌山県立桐蔭高等学校出身

学内外で幅広い活動を行いながら、博物館学や文化施設のあり方について学んでいる阿部さん。現在は特に、展示を通じた来館者への教育的影響と、それを担う学芸員の役割に関心を持っており、自主企画展の開催や博物館での聞き込み調査を通して実践的に学んでいます。

学内で立ち上げた展示企画「派生する展示」は、すでに4回開催されており、テーマ設定から準備、展示方法の工夫、来場者との対話までを通じて、展示がどのように伝わるかを検証しています。「展示の準備には長い時間がかかるが、撤収は一瞬。伝えたい意

図が十分に届かない難しさもあるが、学びがとて多い」と感じているそうです。

そのほかにも、茶道部ではお点前の所作を通して相手へのもてなしを学び、DJサークルでは楽曲を組み合わせて構成を作る面白さを体感。活動の軸には「気持ちを届けた相手の反応」への興味が根底にあるといいます。「展示も音楽も、自分の意図がどのように受け取られるかを試行錯誤しています」とのことです。

また、不登校支援活動「ワンダーワンダー」では、大学生が当事者にどう関わるかを模索しながら活動しており、「支援のあり方や“居場所”について考えるきっかけになった」と振り返ります。

SUACへの進学後、多様な考え方を持つ学生との出会いが視野を広げる機会になったと語る阿部さん。「SUACには学内にギャラリーがあり、自ら企画展を行えるのが魅力です。さまざまな活動を通して、やるべきことの優先順位をつけて活動できるように成長したと感じています。目的意識も明確になりました。」とも。今後は、学外での展示企画や他大学との共同研究、海外の博物館でのインターンシップなどに挑戦していきたいと熱い意気込みを話してくれました。



支援活動「ワンダーワンダー」での1コマ。参加者と和紙の折染めに挑戦中!



「派生する展示」第4弾の「背もたれ額縁展」。椅子の魅力を“展示”で伝える試みでした。

語り継がれた「心と記憶の遺産」を伝えたい



高淵 早紀さん

文化政策学部 国際文化学科 3年
滋賀県立米原高等学校出身

鬼沢 知里さん

文化政策学部 国際文化学科 3年
茨城県立水戸桜ノ牧高等学校出身

丸山 凛さん

文化政策学部 国際文化学科 3年
静岡県立袋井高等学校出身

辻榮 春菜さん

文化政策学部 国際文化学科 3年
富山県立魚津高等学校出身

二本松 康宏 教授

文化政策学部 国際文化学科

『佐久間のむかしばなし』 刊行に向けて

4人の学生は、今年4月に伝承文学ゼミに所属。
話者である佐久間町のお年寄りから昔話を聞き取り
記録する採録調査を8月まで実施。
その後は採録した昔話の文字起こしや解説文の
補足調査・執筆、3度の校正作業等、出版に向けての
ハードワークが来年3月まで続く。

二本松先生について

丸山：私も直感や好奇心に近いです。サークルには入らず、大学の友人も数える程度で、大学との関わりが本当に薄かったので、「大学でやりきったことは何？」と聞かれたら困ると思いました。そんな時に先生のゼミプレゼンを聞いて、すごくわかりやすいし、最終的に本を刊行するというゴールがあるので、それが「やりきったこと」の証明になるなと思って入りました。

二本松：プレゼン頑張ってたよ。

辻榮：私はゼミに入るまで二本松先生の授業を受けたことがなかったので、初めて会った時からそれほど印象が変わらないんだけど、みんなはどうでした？

丸山：先生の授業を受けていた私からすると、やっぱりゼミは関わりが深くなるので、ゼミ以外の学生もいる授業の時より親近感がありま



すよね。先生がゼミの指導教授でよかったと思うことは多々あって、例えば、調査をする上で、私は話者さんの話を何でもそのまま信じてしまふんです。それを毎週水曜日のゼミの報告会で先生に指摘され、初めて矛盾に気づいたんですけど、その指摘が何回か続くと、自分でも「この話、少しおかしいな」と気づいて、調査の場で話者さんに質問を返せるようになりました。その成長はまさに先生のおかげです。

二本松：ありがとうございます。

高淵：2年の後期に初めて先生の授業を受けたんですけど、授業内容やお話しがすごく面白くて印象的でした。でも、ゼミ選考の面接は、それまで直接話したことがなかったの、とても緊張しました。ゼミに入ってから、今、思ったことを尻込みせず発言できているのは、先生がいつも話しやすい雰囲気を作ってくださっているからだと感じています。

鬼沢：私は教職課程でも先生と話す機会がありました。先生には「それってAーにも言えるようなことだね」とゼミでも教職課程でもよく指摘されます。そう言われると、「じゃあAーが言えないことってなんだろう」とか、「質問を質問で返した方がいい」と言われたら、「質問を考えない」という感じで、いろいろ考えることができるようになりました。ありがとうございます。

採録調査で印象に残っていること

丸山：今年の5月から実際に話を聞く採録調査が始まり、その最初の日は私は印象に残っています。先輩から「腰を浮かせて話を聞いて」と言われていたのに、気がついたらベチャ

残念となる時もあった、いろいろな感情が車内に渦巻いているんです。もちろん片道1時間半もあるので、車窓からの景色も楽しめて、すごく面白い時間だなと思いました。

丸山：私は先生や先輩の助言で、初めて話者さんに会った時、例えば、「そのボーチ素敵ですね。今日はどこから来たんですか」というように、相手の持ち物をほめると、うまく話が進むよと教えられていたので、実践してみたいです。すると、話がすごく進んで、たぶん70代ぐらいの方だと思いますが、YouTubeをやっていたので、「動画を見せてください」と言ったら、さらに会話が弾みました。次に個別訪問した時も覚えていてくれて、こうして話を広げていけばいいんだなと実感しましたね。

ゼミの伝統を受け継ぎ、次の代へ

丸山：ゼミに入って、先輩たちから伝承文学ゼミについてのプレゼンを聞いた時、「聞き取りは相手の話を聞く姿勢や態度が重要」と教わりました。最初は腰を浮かして聞くことができなかったけど、話を聞く姿勢や態度としてすごく大切なことだと感じて、次のゼミ生にも伝えていかなくてはと思っています。

高淵：授業の時に先輩たちが「最近どう？」と言って、調査のことや今後のことについての心配事や悩みなどを聞いてくれるので、とても心強いです。

鬼沢：地域の人々の「心と記憶の遺産を預かる」という、この活動に対する先輩たちの思いはみんな一緒だけど、「一人ひとりのやり方は違って、それぞれ別方向から攻めているところがすごいなと感じます。

二本松：それってすごく大事なことで、目的は一つだけど、取り組み方や思想性は一人ひとり違うはずなんだよね。みんなが同じ視点で同

ンと座っていました。話も続かないし、自分でバックナンバーを読んで、「こういうのはありませんか？」と聞いたりして、あまりよくない調査方法でした。初日は結構しんどかったです。

高淵：私は最初、先生から「置物か!？」と言われて（笑）。

二本松：顔の表情が置物みたいに動いていなかったからね。

高淵：覚えています。自分ではそれなりに笑っているつもりでしたが、その時に撮影した写真を後で見たら、全く笑えていなかった！私の調査中の癒しは合間のお昼ごはんです。午前の90分の調査が終わりのおいしいものを食べて、一旦リセットされる時間が本当に癒やされます。

鬼沢：私は話者さんからお話をもらいました。初対面の時はあまり話をしませんでした。親しくなれなかったのですが、集団調査から個別訪問に移るうちに、だんだん打ち解けて「二〇」してくれるようになりました。今ではお祭りに誘ってもらったり、飼っている猫の名前を覚えてくれたりするほど仲良くなりました。特に、帰る時「また遊びに来てね」と言われたのが、信頼を寄せてもらえたんだなと感じて嬉しかったです。

辻榮：「お話を聞きに来ました」と言って、笑顔で迎えてくれるって、今の時代じゃ考えられないことですよ。

二本松：今の時代、それってすごいことだよ。

辻榮：私は西鹿島駅と現地まで行き来する車での移動時間が面白かったです。行く時は「今日はどんな話が聞けるかな」とか、「あの話者さんならこんな話が引き出せると思うよ」と、みんなで情報交換できるし、帰りは「うまくいって嬉しい」という時もあれば「今日は

じ考え方をすると、補えなくなるから。だから、それぞれが違う視点、違うアプローチで、それぞれの道を歩んでいった結果、同じ境地にたどり着く。それが理想のチームだよ。

辻榮：私たちが1年後、先輩たちのようになるという。これからですよ。

丸山：そう。これから補足調査をして地域の解説を書く作業がありますが、私はそれが心配。でも、3人の仲間と楽しい時も辛い時もお互いをわかり合って、最後の原稿提出までたどり着きたいと思います。

辻榮：私もやっぱり不安や心配はたくさんあるけど、「何か一つ本気でやり遂げたい」と思っているのゼミに入ってからこそ、みんなで最後まで頑張りたいです。

高淵：私は後期が大変な時期に聞いていたけど、前期の最初から大変でした。後期は「地獄が更新されていく」と言われていて不安もありましたが、みんなで励まし合って、時にはストレスを分散させて、完成を楽しみに頑張りたいです。

鬼沢：私もみんなが言った通り、すごく不安です。私はこれまでレポートやメモなど、自分のための文章しか書いてこなかったの、他の人にもわかりやすい文が書けるのかどうか心配です。ただ、先生から「終わった瞬間に成長する」と聞いているので、4年生になった時、「成長したね」と言われることを目標にしていこうと思っています。

二本松：本当にね、本が出版された瞬間から、いつかに、見違えるように成長するんだよ。あれは毎年すごい。私もびっくり。このゼミをやっている最高に幸せを感じます！

全員：それを楽しみに頑張ります！



佐久間のグルメ紹介

毎週のように民話の採録調査で天竜区へ通う伝承文学ゼミ。

そんなゼミメンバーの楽しみの一つが調査先での「お昼ごはん」。

令和7年度の佐久間町での採録調査でお世話になっている2店を紹介します。



喫茶DON

住所：浜松市天竜区佐久間町相月11

電話番号：053-964-0428

営業日・時間：水～土11時～14時（定休日：日～火）



昭和63年の開店以来、長年、地元の人々に親しまれてきた喫茶店です。ツーリングのライダーにも人気のようです。マスターの坂口傳吉さんのご自慢は佐久間の名水「龍頭の湧き水」で淹れたコーヒー。食事のメニューも充実していて、熱々の

鉄板で提供されるナポリタンは薄焼き卵に乗った昔ながらの喫茶店の味。ボリューム満点の味噌カツ定食や夏季限定の冷やし中華もおすすめて。お話好きでサービス精神旺盛なマスターのおかげで調査のランチタイムがとても楽しみです。



鉄板の上に薄焼き卵を敷いた、昔ながらの喫茶店風ナポリタン

縁側カフェ結

住所：浜松市天竜区佐久間町相月515

電話番号：053-987-2320

営業日・時間：土日祝10時～16時（定休日：月～金）

※ 冬季は道路が凍結するため休業

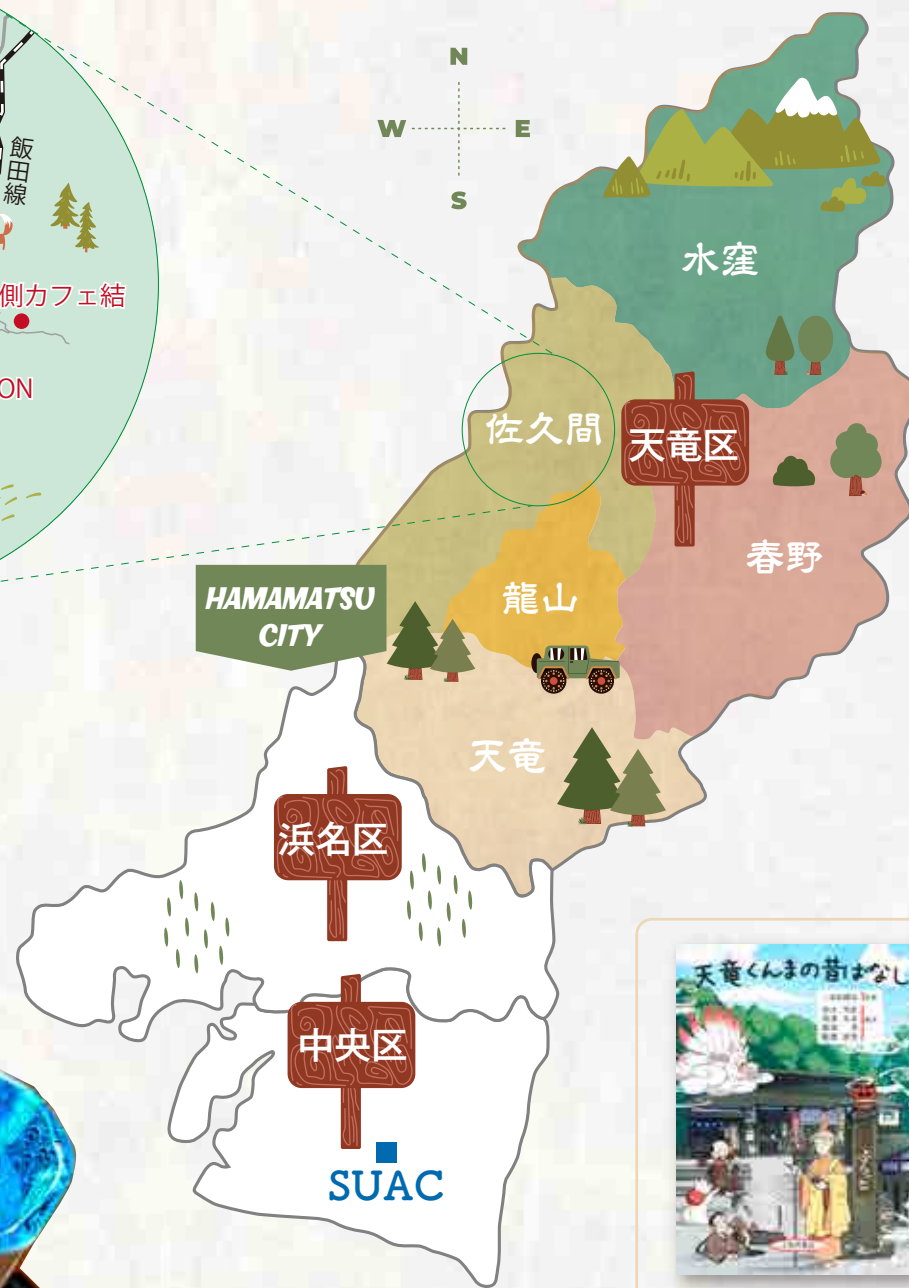


佐久間に移住してきた山田修平さん、ひろ子さんのご夫婦が営むカフェ。普通の住宅がそのままお店になっているので、靴を脱いで玄関をあがると、まるで田舎の親戚の家に遊びに来たような感覚になります。通常はカフェメニューのみですが、事前に予約をすればランチをいただくこともできま

す。山形県出身の修平さんが作る芋煮と、ひろ子さんのお手製の餡と黒蜜で作られたあんみつがおすすめ。自然に囲まれた穏やかな空間で美味しいごはんをいただくひとは、ほんとうに癒されます。



お気に入りの、自家製餡と黒蜜のあんみつ。



伝承文学ゼミ

民話の採録調査と書籍刊行のあゆみ



『水窪のむかしばなし』
（二本松康宏監修、植田沙来・内村ゆうき・野津彩綾・福島愛美・山本理紗子編著、三弥井書店、2015年）



『みさくぼの民話』
（二本松康宏監修、岩堀奈央・植木朝香・末久千晶・鷹野智永・久田みずき編著、三弥井書店、2016年）



『みさくぼの伝説と昔話』
（二本松康宏監修、佐藤紀莉・下川知沙子・羽石誠之助・東美穂・平手結花・山本かむい編著、三弥井書店、2017年）



『春野のむかしばなし』
（二本松康宏監修、伊藤優華・藤井優・吉高里編著、三弥井書店、2019年）



『春野の昔話と伝説』
（二本松康宏監修、亀本梨央・川口瑠穂・柴田俊輔編著、三弥井書店、2020年）



『春野の山のふしぎな話』
（二本松康宏監修、小田ありさ・奥村宗明・澤田駿輔編著、三弥井書店、2022年）



『春野の民話』
（二本松康宏監修、奥理咲子・島津華梨・中澤明香・永田絵美梨編著、三弥井書店、2023年）



『春野のむかし語り』
（二本松康宏監修、小鍋未羽・佐藤菜々美・藤井七海・望月花鈴編著、三弥井書店、2024年）



『天竜くんまの昔ばなし』
（二本松康宏監修、鈴木実咲・滝澤未来・服部奏・廣瀬波貴編著、三弥井書店、2025年）



『たつやまの民話』
（二本松康宏監修、稲葉夏鈴・岡田真由子・小林由芽・玉置明子・中谷文音・毛利とむ編著、三弥井書店、2018年）



『北遠の災害伝承
一語り継がれたハザードマップ』
（二本松康宏監修、青木ひめの・青島朝果・小川日南・川崎結麻・米川沙弥・松井佐織編著、三弥井書店、2021年）

「SUAC Brazil Week」を開催しました

日本とブラジルの外交関係樹立130年を記念し、6月23日から27日までの5日間にわたり、本学国際交流センターにより「SUAC Brazil Week」を開催しました。

期間中には、講演や報告会、芸能実演、キッチンカー販売など、さまざまなイベントが実施され、多くの参加者がブラジル

と日本の交流の歴史を学び、文化を体験しました。

「SUAC Brazil Week」の開催にあたっては、在浜松ブラジル総領事館をはじめとする各団体の温かいご協力を得ることができ、イベントに参加した学生や教職員のブラジル文化への関心や多文化共生への理解が深まりました。



「オープンキャンパス2025」を開催しました

8月9日、10日の2日間にわたり、「オープンキャンパス2025」を開催しました。厳しい暑さのなか、全国各地から多くの高校生やそのご家族にご来場いただき、延べ3633名の皆さまにご参加いただきました。学科説明をは

じめ、模擬授業、トークイベント、工房見学など、SUACならではの学びと環境を体感できる多彩なプログラムを実施。本学での学びのイメージを、より具体的に描いていた

だけの機会となりました。



SUAC 公式サイト

Webサイトでも本学の教育・研究や在学生・卒業生の活躍など、トピックスをご紹介します。
<https://www.suac.ac.jp/topics/2025/>



SUAC 公式 SNS アカウント

公式SNSアカウントでは、日々の学内での出来事やイベントなどをご紹介します。



@suac_official @suac2000

2年連続!「コメダ珈琲店 豆菓子パッケージ」に学生作品が採用されました

全国に1,000店舗以上を展開する「コメダ珈琲店」。全国の美術・芸術大学、専門学校に通う学生を対象に「豆菓子パッケージデザイン」が募集され、応募作品数151点の中から、藤田遥名さん(デザイン学部3年)の作品がグランプリを受賞しました。作品はパッケージ商品化され、2025年3月上旬頃より、全国の店舗で提供が始まっています。本学学生のグランプリ受賞は、昨年度に引き続き2年連続の快挙となります。



藤田さん コメント

コメダ珈琲店と街の四季の移ろいをテーマに制作を行いました。アイデア出しの際に、コメダ珈琲店が「街のリビングルーム」でありたいと発信されているのを知り、街の人々に安らぎやくつろぎを提供する存在であることを再認識したので、コメダ珈琲店と街との繋がりをイメージして制作しました。それに基づき、街頭や石畳の床などの街らしいモチーフとコメダ珈琲店のメニューを組み合わせ、線のタッチを多く残すことで温かさを引き出しました。

天竜川・浜名湖地域12市町村合併20周年ロゴマークにデザイン学部生のデザインが採用されました



2005年7月1日に天竜川・浜名湖地域12市町村が合併し、現在の浜松市が誕生しました。今年、合併20周年を広く周知するため各種イベント等に使用するロゴマークが公募され、デザイン学部2年の畑あかりさんの考案したデザインが採用されました。

浜松市ではこのロゴマークを冠したイベントを2026年3月まで実施する予定です。

畑さん コメント

音楽イベントが盛んな中央区をブルー、浜名湖に隣接する浜名区をオレンジ、自然豊かな天竜区をグリーンで表現し、楽器、うなぎ、お茶をシルエットに入れました。これらを繋げ、一つの円とすることで、三つの地区が手を取り合い一体となって、より良い地域を作っていく様を表現しました。採用されて非常に光栄です。

【研究分野】

グラフィックデザイン
インフォグラフィック

Profile

三重県出身。名古屋市立大学大学院
芸術工学研究科博士後期課程修了
＜博士（芸術工学）＞ 新聞社勤務、
岐阜市立女子短期大学准教授を経て
2022年度より現職。授業では「グラ
フィックデザイン概論」「ソーシャルデザ
イン特論」などを担当。



小川 直茂 准教授

好きなことを 追いつけて見えた、 デザインのかたち

読書から得た 創作・表現への志向性

中学生のころは、学校の図書室の本全部読み切るぞ！の勢いで片っ端から読み漁り、多い時は1年で300冊近く読んでいたほどです。なかでも小説をよく読み、空想の世界を渡り歩く感覚が何より心地よかったです。

ことばの表現である小説をたくさん読むことにより、自分でも気づかぬうちに「創作」や「表現」への志向性が育っていたのかもしれない。絵を描くことも好きでしたが、特に進路と結び付ける意識はなく、最初は漠然と理系志望。高校までは「将来は工学部へ」と考えていました。受験直前の高校3年生の時、名古屋市立大学の「芸術工学部」という、新設学部のパンフレットを偶然手に取り、「デザインって何だろう？」という好奇心に突き動かされ受験、まさかの合格。これが人生の転機でした。

入学後は、想像以上に幅広い学びが待っていました。グラフィックだけでなく、建築、プロダクト、プログラミグまで、多様な課題に取り組む中で、自分の知的好奇心が次々と呼び覚まされました。好きな作品・鳥山明さんの漫画や京極夏彦さんの小説―に共通するのは、二人ともデザインを仕事としていた経験から、「絵の力」や「文字組みの美しさ」を通じて、デザインの「気配」が感じられること。自分が好きなものは実は全て「デザイン」という糸で繋がっていたんだと実感した瞬間でした。

「デザイン」の
幅広さを感じる

新聞社勤務から研究者へ、 追究するテーマや活動とは

学部の卒業研究は電子ブックの未来に関する研究、卒業制作は地元三重県志摩市のまちづくり企画と、多岐にわたるテーマに取り組みました。大学院修士課程修了後は、新聞社のデザイン部門に所属し、紙面デザインやインフォグラフィックスを担当する一方、文化人の論説に添える挿画などグラフィックアーティストとしての仕事にも携わりました。研究者となった現在は「情報を分かりやすく伝えるデザイン」を自分の専門軸に据え、業にまつわる様々な情報の表示をどうデザインすれば利用者に優しくなるかを博士論文テーマとしました。また、子育て経験から感じた「良質なおもちゃ」「良質な遊び環境」の価値

学生の皆さんへ

教える立場として伝えたいのは、「好きなものに取り組む過程の様々な経験、失敗も、苦しいことも、つまらないと感じることも全部、自分の糧になる」ということ。今の若者は選択肢が多すぎて、不快なものを簡単に遠ざけてしまえるけれど、「一見楽しいとは思えない経験こそが後に「気づき」や「成長」をもたらす。だからこそ、すべてを前向きに受け止めてほしいのです。

結局、自分にとつての原点は「好きなものにどこまでもめり込める好奇心」でした。それが今、研究者、そしてデザイナーの日々を支えていると思います。

小川先生が選ぶ一冊

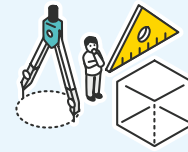
「デザイナーは喧嘩師であれ
四句分別デザイン特論

著：小川和男

小川先生の大学時代の恩師の著作。デザイナーが社会や自身と繰り返し対峙し、挑発・対話を通じて新たな視座を切り拓く姿勢を力強く提唱。日本と世界の課題に真正面から挑むデザインの覚悟と実践が凝縮された意欲作。



こいのぼりアップサイクルプロジェクト
井口仁長さん主宰のプロジェクトに小川先生も参画。本年6月に新組織を設立し活動も本格化。
Instagramアカウント @jinchoiguchi



Research Introduction

SUAC研究の「いま」

半屋外公共空間における仮設物のデザインに関する研究 ―浜松市中心市街地を対象として―

■デザイン学部デザイン学科 教授／亀井暁子 ■デザイン学部デザイン学科 准教授／丹羽哲矢



研究初年度に計画・制作・設置の実験装置

近年、中心市街地の公共空間における滞在性を上げることによりまちなかの賑わいにつなげようとするこへの関心が高まっています。浜松市においても、屋外の公共空間の活用は重要な課題として認識されており、まちなかの利活用されるべき対象区域として浜松駅周辺の、本学を含めたエリアが指定されています。本研究は、公共的な半屋外空間に仮設の要素によって人と場をつなぎ、滞留空間を創出する実践的調査研究の試みです。半屋外の空間には、屋根の要素や柱等、場を規定する要素があり、それら要素との関係を考慮しながら検討する必要があります。

活用を目的として整備した「新川モール」の指定管理者である株式会社HACK様のご協力を頂き、実験装置を設置運用することができました。実在の場所における現地調査・計画・制作設置および運用状況調査を通じて、半屋外の公共空間における仮設の要素による場の作り方に関する知見を得るとともに、浜松市中心市街地における人々の滞在を支援し、賑わいの可視化に貢献することを目指しました。

初年度には、まずは実験装置設置予定地である半屋外空間について把握するため、時間や曜日など様々な状況における場の利活用の状況やその変化に対する現地調査、空間特性に関する分析を行いました。その上で、実験装置の検討・設計・制作を行いました。制作に際して



現地に搬入し最終組立て・設置の様子

は学外の木工CNCルーターを使用させていただきました。またこのような制作手法を前提としたデザインとすることにより、汎用・展開可能性をもたせました。それら実験装置を現地に設置させていただき、使われ方調査を行い、場において仮設の要素が果たしうる役割を分析・考察しました。3年の研究期間での実験装置の運用を通じて、継続的に運用・利活用頂くとともに、継続運用に伴う経年劣化に関するデザイン検証を行いました。

制作・運用した実験装置は、円形の机・ベンチ各1、組み合わせると円形になる高さ違いのベンチ・カウンター要素6、コーナーベンチの計4種9要素でした。いずれも多義的に利用可能な形状としたことから、利用向きや使われ方において多くのバリエーションが確認されました。場の利用状況に応じて組み合わせや配置を変え活用され、様々な風景をうみだしました。半屋外空間における、その場所のスケールを考慮した形状・構成を持つ要素によって、まちなかにおける賑わいと人々の滞留の風景を生み出すことができました。人と空間をつなぐデザインの可能性について考察することができました。なお実験装置は、利活用時の風景が様々な場面で発信され、ベンチの1つは複製され県外の駅コンコースに設置・利用される展開をみせました。

実験装置は研究終了後も現地に継続運用されており、設置場所の



県外駅構内に設置された実験装置の複製



継続運用に伴う補修対応作業

指定管理者様との継続的な連携のもと、今後も運用状況からのフィードバックを得て知見を蓄積し、仮設要素のデザインの検証に生かす予定です。また本研究で得た計画面・技術面の知見を活かし、今後も引き続き、浜松市内の半屋外の公共空間の質を上げることに関与できればと考えます。これら半屋外空間での人々の活動を支援し滞留を促す要素は、人々の活動を可視化し、まちなかの賑わいにつなげ、人々が土地の自然環境を体感する契機を生むこと期待します。要素がもたらすそれら発展的可能性を視野に入れ、他の実践の機会への展開を目指します。

研究成果発表会のご案内

教員特別研究で実施した研究成果を、地域や市民の皆様にも広く発表し地域に還元することを目的として研究成果発表会を開催します。

日時 10月30日(木) 14:40～ 場所 静岡文化芸術大学講堂

入退室自由 YouTube配信実施

※本学駐車場はご利用できません。公共交通機関や近隣の駐車場をご利用ください。

授業紹介

空間価値の 向上への 香りの活用法

デザイン学科専門科目

インテリアデザイン論

担当：植田 道則 教授



「インテリアデザイン論」では、学生たちが、私たちの生活を形成する空間づくりについて、その意味・役割や、デザインの基本作法を学んでいます。ここでは、空間デザインの実務における知識にとどまらず、そこで生きる人々の心身や五感への効果についても探求しています。

その中で、アロマ関連事業を手掛ける民間企業の代表取締役を招いた講義では、「香り」による空間づくりがテーマとなりました。インターネットやデジタル機器の普及により視覚情報への依存が強まる昨今、記憶や感情に直接訴求する「嗅覚」への情報の重要性は急速に増えています。ゲスト講師が代表取締役を務める会社では、オフィスや商業施設等をアロマによってデザインする事業を展開していることから、香りをを用いた空間デザインの効果について、マーケティング

や空間価値の向上といった、様々な実例を交えながら紹介されました。

講義の後半には、学生たちがオリジナルブレンドのアロマスプレーづくりを体験。パーソナル診断に基づき天然精油を選択した後、自分らしさを表現する香りを配合したオリジナルのアロマスプレーを完成させ、香りがもたらす効果を体感しました。

アロマによる多彩な空間デザインの実例と、感覚に直接作用する香りの効果の体験を通して、学生たちは、デザインのひとつとして香りが果たす役割について学びを深めました。

詳細はこちら



SUACさ・ん・ぽ ～天竜・二俣編～

今回は、浜松の中心市街地を飛び出し、北遠の入り口「天竜・二俣」をご紹介します。天竜・二俣は、大学から車で北に約1時間の距離にあります。コンパクトなまちですが見どころいっぱいです。

① 二俣城跡

天険要害で難攻不落の城。戦国時代、今川・武田・徳川の戦いの場となりました。また、徳川家康の長男信康が織田信長に謀反の疑いを掛けられ、非業の死を遂げた場所です。



② 秋野不矩美術館

二俣を見下ろす緑に囲まれた丘の上に建つ美術館は、自然素材をふんだんに活かした建築家・藤森照信の設計で、二俣出身の日本画家・秋野不矩の作品を裸足でゆったり鑑賞できます。

③ 天竜二俣駅

天竜浜名湖鉄道の駅。旧国鉄二俣線時代の1940年開業の木造駅舎で、転車台や扇形車庫も現役で活躍しています。転車台、扇形車庫は国指定登録有形文化財。ノスタルジックな歴史散策に最適です。

④ クローバー通り商店街

昭和レトロな雰囲気が残る約40店舗が軒を連ねる商店街。古くからの店とリノベーションされた新しい店舗が共存し、地元住民や観光客に親しまれています。

⑥ Studio Cimpui

本誌「SUAC'S OB 卒業生の活躍」ページで紹介した寺田隼さんの事務所兼アトリエで、寺田さん自ら設計しました。二俣城の森の麓にあり、朝は鳥のさえずりが賑やかとのこと。



⑤ 旧田代家住宅

安政6年(1859年)に建てられ、天竜川の筏問屋として繁栄した歴史を伝える貴重な民家。本学の「地域連携演習」のプログラムの一つである「旧田代家住宅活用プロジェクト」の活動拠点でもあります。夏には学生たちが七夕飾りの展示を行います。



Updates

キャリア支援室より

Career Support Office

就職状況報告 (2024年度卒業生・22期生)

全体の就職率は97.8%となりました。売り手市場の状況を反映し、開学以来2番目に高い数字となっています。

業種は、文化政策学部ではサービス(38%)公務(13%)小売(13%)金融・保険(12%)製造(11%)が、デザイン学部ではサービス(48%)製造(20%)建設業(10%)小売(10%)が主な就職先となります。

職種は、文化政策学部では販売(36%)事務(36%)情報処理(10%)サービス職(10%)が、デザイン学部ではデザイン関連職(デザイナー、設計職等52%)が中心となっています。

就職した地域は、東海地方49%、関東地方38%、近畿地方6%となっています。

2025年度卒業予定者の就職活動は、昨年度同様のペースで現在次第に結果を出しつつあるところです。

キャリア支援室では、最新の動向を注視しながら、近隣大学や地元自治体等とも連携し、学生一人ひとりの志望や活動状況に合わせてのアドバイスや求人情報の提供等きめ細やかな支援を行っています。

2024年度卒業生:就職状況	(2025年3月31日現在)			
	卒業者	就職希望者	就職者	就職率
文化政策学部	208	178	176	98.9
デザイン学部	109	95	91	95.8
合計	317	273	267	97.8

主な 就職先・進学先

文化政策学部

【就職先】愛知県教育委員会、国税専門官、(独)国立病院機構、(株)JR東海ホテルズ、(株)ジェイティービー、静岡県庁、(株)静岡新聞社、スズキ(株)、鈴与システムテクノロジー(株)、中部国際空港旅客サービス(株)、浜松磐田信用金庫、浜松市役所、浜松ホニクス(株)、日本放送協会、(株)日本旅行、(株)ファーストリテイリング、(株)星野リゾート・マネージメント、ヤマハモーターソリューション(株)、(株)良品計画

【進学先】静岡文化芸術大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、福岡教育大学大学院

デザイン学部

【就職先】(株)エイエイビー、遠州鉄道(株)、掛川市役所、(株)クリーチャーズ、国税専門官、佐藤工業(株)、(株)GKダイナミクス、スズキ(株)、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント、ダイハツ工業(株)、大和ハウス工業(株)、(株)TASAKI、テレビ静岡システムクリエイツ(株)、東映アニメーション(株)、(株)東芝、トクラス(株)、(株)名古屋テレビ映像、富士ソフト(株)、(株)本田技術研究所、リンナイ(株)

【進学先】静岡文化芸術大学大学院、東京藝術大学大学院

インターンシップ・オープンカンパニー説明会

本学では、就職活動の準備として重要性を増しているインターンシップ・オープンカンパニーへの参加を促すために、主に3年生を対象として6月に説明会を実施しました(1,2年生も参加可能)。本学学生の採用実績がある企業や、学生が興味を持っている企業を中心に40社に参加いただきました。学生が参加しやすいように、昼休みの時間を利用し、1社30分間の説明を1日2社まで、21日間かけて実施し、延べ381人の学生が参加しました。短い時間ではありますが、説明後の質疑応答も積極的に行われ、学生の企業や業界に対する理解が深まりました。



「ご家族のためのキャリア説明会」を開催します

「ご家族のためのキャリア説明会」を、碧風祭に合わせた日程で実施します。就職活動の動向についての講演や、各業界で活躍中の本学OB・OGによるパネルディスカッションなどを予定しています。ぜひご参加ください。

日程

2025年11月2日(日)午前
(学部ごとに分かれて実施します)

会場

静岡文化芸術大学 大講義室
※事前申込みが必要です。詳細は大学ホームページに掲載します。



ご意見・ご感想をお寄せください

広報誌に関するアンケートにご回答いただいた方の中から
抽選で5名様に大学ノベルティグッズをプレゼントします。

応募方法 2025年11月30日(日)までに、二次元コードより
アンケートフォームにアクセスし、回答してください。

ご応募・ご回答は
こちらから



※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。



SUACダブルリングノート&水性インキボールペン(黒)
本学卒業生がボールペンのプロダクトデザインを担当しました!

静岡文化芸術大学同窓会だより

碧風祭2025

碧風祭は卒業生が大学に集う日：Homecoming Dayです。今年度は、11月2日(日)、3日(月・祝)に碧風祭を開催します。また、同窓会も碧風祭に協賛をしています。多くの卒業生にご来場いただけること楽しみにしています。

公式LINEの開設

広報誌「碧い風」を卒業生のみさまにお届けしていましたが、2024年度の送付で最後となりました。今後は、新たに公式LINEを開設し、大学の情報の発信のほか、同窓会などのご案内をいたします。卒業生間の交流や大学との連携が発展することを期待しています。

開学25周年記念について

2026年度には、開学25周年を記念した事業を計画しています。卒業生の皆様も「こんなことをしたい」というご意見がありましたら、同窓会までご連絡ください。

静岡文化芸術大学同窓会

E-mail アドレス
dousou@suac.ac.jp

碧風祭HP



同窓会HP



静岡文化芸術大学基金 (教育研究支援・修学支援事業) 寄附者ご芳名

令和7年1月1日から
令和7年7月31日まで

ご寄附を頂戴した方々のご厚意に心から感謝を申し上げますとともに、
謹んでご芳名を掲載させていただきます。
今後、学生が行う海外留学の支援等に充てさせていただきます。
皆様には引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄附金額 10,438,000円
(内訳：教育研究支援10,370,000円、修学支援事業68,000円)

寄附者ご芳名
(五十音順、敬称略)

【個人】石川 陽子 加藤 祐輔 望月 良江
田辺 好志 藤川 智子 松本 賢太郎

※ご芳名の掲載を希望されなかった方(3名)を除いて掲載しております

【団体】東海ビル管理株式会社

新任教員紹介

Introducing New Faculty



文化政策学部文化政策学科 講師 | 専門領域：廃棄物 / エネルギー / 地球温暖化 / 情報学

叢 日超

今年度より文化政策学科に着任致しました叢日超です。宜しくお願い致します。担当授業は、ICTスキル基礎、データサイエンス入門、情報リテラシー論などです。私は、情報工学の専門で資源循環・省エネと脱炭素・環境関連の課題を研究してきました。今後、情報と文化政策の融合した分野で展開していきたいと思います。今までは、国立研

究機関と工学系の大学で勤めてきたので、SUAC特有の魅力を実感し始めています。授業やゼミの活動を通して、私自身は多くの刺激を受けています。学生や教職員の皆さん、そして地域の方々とも接するいろいろな機会を、これから非常に楽しみにしています。



デザイン学部デザイン学科 講師 | 専門領域：グラフィックデザイン / エディトリアルデザイン

倉澤 洋輝

グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、タイポグラフィ、写真撮影を専門として、美術館などで開催される美術工芸領域の展覧会の魅力を広く伝えることを実践しています。人々の興味を引く視覚表現を作り出せるように試行錯誤を続けると同時に、グラフィックデザインの知見をいかした工芸

作品の制作・研究にも取り組んでいます。伝統工芸的な手作業と、その対極にあるデジタルツールを組み合わせたプロセスの構築や、商業印刷技術の工芸への応用などを研究し、新規性のある工芸作品の制作を行っていきたくと考えています。



デザイン学部デザイン学科 講師 | 専門領域：現代音楽 / 電子音響音楽 / サウンドデザイン

佐藤 亜矢子

作曲家・サウンドアーティストとして国内外で活動しています。私たちをとりまく日常の環境音・現実音・物音を録音し、それらを素材とした音響作品の制作・演奏を主に行っています。電子音響音楽や映画、インスタレーションなど、多様な形式を横断するフランスの作曲家リュック・フェラーリの研究にも取り組んでおり、その作品群から大きな刺激

を受けています。音や音楽を媒介に、空間・場所・環境との関係を探ることに関心があります。本学でも、音と向き合う創造的な試みに加え、浜松という地域に根ざした文化との接点を持ちながら、教育・研究の両面から豊かな交流を育んでいければと考えています。



デザイン学部デザイン学科 助教 | 専門領域：写真 / 映像 / 表象文化

遠藤 祐輔

フォトグラファーとしてキャリアをスタートし、現在は生成AI、監視社会、ポスト・ヒューマンズをキーワードに映像作品の制作と研究を行っています。着任後、浜松を撮影するフィールドワークを開始しました。市内だけでも、海～都市～山と、多様で美

しい風景が広がっており、成果物を皆様にお見せできる日を楽しみにしています。カメラをぶら下げて撮影している私を見かけたら、どうぞお気軽に声をかけてください。



デザイン学部デザイン学科 特任助手 | 専門領域：木工芸 / 漆芸

太田 正明

木素材を専門にモノ・コトを多角的な視点で捉え、木材表現の在り方についてデザインし「モノづくり」を通して社会や文化を豊かにする研究に取り組んでいます。静岡県は良質な森林を保有しており、浜松市の地域材である天竜材は全国的にも高い評価を得ています。木素材の専門家として、地域材を活用

したモノづくりに携われることに期待と責任を感じ研究に努めてまいります。また、教育にあたっては専門的な技術や知識の修得だけでなく、人との出会いや社会情勢からも感性を磨くことができるように学生とのコミュニケーションを大切にしたい、創造性あるデザイン表現が行える環境作りにも励んでいきます。

ものづくりの原点から独立への軌跡、建築を通して人と場をつなぐ挑戦。



PROFILE

一級建築事務所 株式会社ちんぷい 代表取締役

寺田 隼さん

2009年 デザイン学部空間造形学科 卒業

2011年 大学院デザイン研究科 修了

静岡県浜松市出身。2009年デザイン学部空間造形学科卒業、2011年デザイン研究科修了。一級建築士事務所アトリエを経て、本学デザイン学部の実習指導員として勤務。2016年に「Atelier TenTen」を設立し独立、浜松市天竜区二俣にアトリエを構える。2024年に法人化、株式会社ちんぷいを起業し、屋号を「Studio Cimpui」とする。住宅や店舗の企画・設計から施工まで携わる。

～ Studio Cimpui ホームページ～

<https://www.studio-cimpui.com/>

小学校の頃から図工が大好きで、粘土作品作りが得意でした。ミニ四駆やラジコンも好きで、中学校入学後も続けるほど。祖父、叔父が大工で、作業場が日常風景だったこともあり、漠然と設計やデザインに興味がありました。高校生の頃にはこの思いが強くなり、建築に加え生活デザインも学べる大学への入学を考えていました。高校の先生からSUACのことを教えてもらい、オープンキャンパスにも参加して志望校に決めました。

入学後は、様々な素材に触れ、平面・立体造形の基礎を積みました。転機となったのは1年生の時に起こしたバイクの重大事故。長期間の入院を経験したことで、今やれることをやらなきゃ、と真剣に学びに取り組むようになり、先輩の手伝いや他学科の人が企画するイベントなどに積極的に参加しました。その中で、寒竹ゼミの先輩の卒業制作を手伝う機会があったのですが、その際、建築を通じた社会に対する視点に感銘を受け、自分の世界を建築に表現したいと強く思いました。その後は寒竹ゼミに所属し、課題にとことん向き合いました。寒竹先生からは「前提条件を疑い、問いを立てながらやりなさい」と常々言われ、なかなか進めず苦しむことも多かったのですが、良い経験だったと思います。また、SUACの魅力は他分野の授業も履修できること。古田先生の「映像デザイン演習」で、空間造形学科(当時)の学生である私は、3Dの建物のウォークスルー映像の制作に取り組みました。SUACだからこそ可能だったと今でも思います。

学部卒業後は大学院に進み、同級生と建築系サークル「Ken Ken」を立ち上げ、課題や本を持ち寄り、実際に建築を見に行ったりしていました。この頃には、建築士になることは決めていて、アトリエのインターシップにも参加していました。それまでは東京の建築事務所に行くつもりでしたが、インターン先で温かみのある建築家像を目の当たりにしたことで、東日本大震災、リーマンショックによるシンプルで素朴な建築への回帰の雰囲気もあり、小規模なアトリエへの就職に考えが変わっていきました。その影響で、浜松中心市街地の大規模な都市計画を行った卒業制作と異なり、修士制作では「縮小の時代における住宅建築のあり方」をテーマに、自宅のリノベーション計画に取り組みました。

卒業後は、インターン先のアトリエに3年勤め、その後実習指導員としてSUACに入りました。指導の傍らでアトリエ活動を開始。実際に作る経験はなかったので、いろんな人に手伝ってもらい、学びながら、手探りで経験を積んでいきました。SNSへの投稿から仕事を頼んでくれる人が増えてきたことで、一念発起し、独立しました。

現在は工務店として、小規模な改修なども引き受けています。設計だけでなく、職人さんとのやり取りも行うことで、細かな要望を反映でき、コスト・コントロールもしやすくなります。そうすることで、お客さんに寄り添い、納得してもらえる値段とデザインの完成品を目指しています。工事の際には、お客さんと一緒に解体や塗装も行っていますが、それは思い出の場所づくりの提供の一環として。また、設計の際はコンセプトをあまり立てないようにすることで、その人の人間性が出せるようにしています。使う人が、後から色々なものを飾り、楽しんで使えるようにという工夫です。将来は、形にこだわらず、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。でも、楽しかったり、優しい気持ちになれたりするような場を提供していくことは、これからも大事にしていきたいと思っています。



卒業設計の講評会の風景です。とても大きな模型を作って大胆に都市を改造する提案をしました。この頃はいかに豊かな環境をつくるのかという考えでしたが、かたちを変え住宅や店舗を設計している現在も活かしています。かなりの熱量を持って取り組んでいたことを思い出す写真です。

編集後記

今号では、浜松市の北遠エリアを中心に活動するゼミ生と教員による対談をはじめ、北遠で事業を展開する卒業生へのインタビューや、北遠特集をお届けしました。市の面積の大部分を占める、自然豊かな北遠エリア。そこには、様々な魅力が根付いています。皆様もぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

広報誌に対するご意見、ご感想をお待ちしています。第22号は2026年10月の発行予定です。

